

令和4年7月22日

いがぐり頭の訪問

18時過ぎに校長室がノックされた。坊主頭の3年生が2名で入室してきた。大学進学に関する相談だった。

これまで部活動中心の生活だったが、これからはしっかり学習し、大学進学を目指したいので大学受験時の経験やそれに向けたアドバイスをもらいたいとのことだった。

現状は非常に厳しいところに位置しているようだった。希望する大学との差はとてつもなく大きい。

「今日の集会で話したことは覚えている?」「ハイッ。臥薪嘗胆です。」「硬い薪の上で寝て、苦い肝をなめるです。」「そのとおり。これまで部活にかけたエネルギー以上のものを学習に向ければ成し遂げられるよ。」「ハイッ。」

部活に夢中で時間の確保が苦手だった。社会が苦手で模試は30点に届かないことばかりだった。まずは基礎がため。期限を決めてチャート式を3周。苦手科目は参考書が入ってこないから問題集。追い込み時は14時間/1日やったが長続きしなかった。直前では焦りから問題集を買ってしまった。とにかく基本は授業。 などなど40年前の自分の話を夢中でしてしまった。

1ヶ月後、進捗状況を報告するよう求めた。あのまっすぐな瞳に期待する。